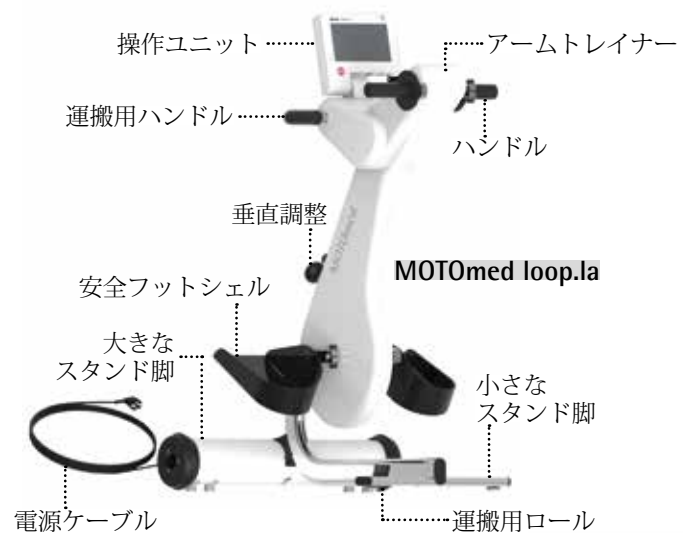
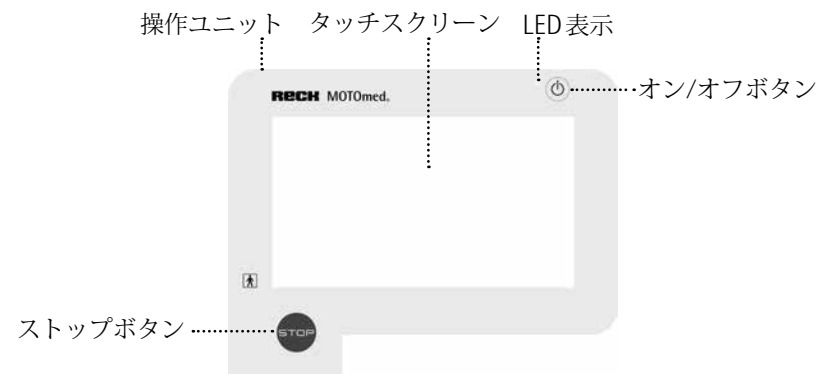


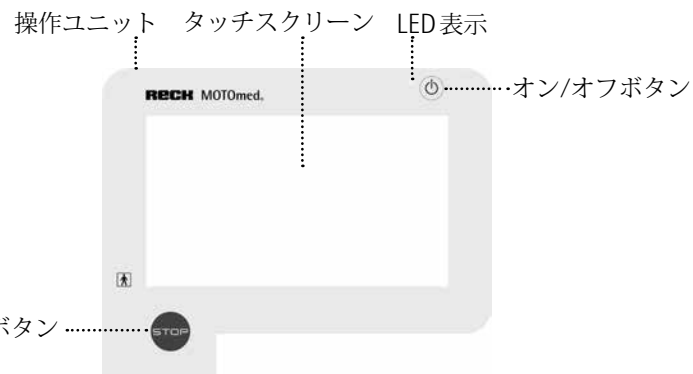
取扱説明書

MOTOmed® loop edition



Reck





- en Please use the MOTOMed only after you have read the instruction manual.
 If you should not understand the language of the present version, please request the instruction manual in your national language.
- de Benutzen Sie das MOTOMed erst, nachdem Sie die Gebrauchsanweisung gelesen haben.
 Sollten Sie die vorliegende Sprachversion nicht verstehen, fordern Sie bitte eine Anleitung in Ihrer Landessprache an.
- ja MOTOMed は、取扱説明書を読んでから、ご使用ください。ここにある言語バージョンを理解できない場合、ご自分の言語の説明書を請求してください。
- fr Avant de commencer votre entraînement MOTOMed, veuillez lire les instructions d'utilisation. Si ces instructions d'utilisation ne correspondent pas à votre langue, n'hésitez pas à nous demander une autre traduction.
- es Utilice el MOTOMed sólo después de haber leído las instrucciones de uso.
 Si no entiende el idioma de la presente versión, por favor exija un manual en su lengua nacional.
- pt Use o MOTOMed somente, depois de ter lido as instruções de operação.
 Em caso que você não compreenda a língua desta instrução, peça por favor uma orientação em sua língua nacional.
- it Per un ottimo funzionamento del MOTOMed leggere le istruzioni per l'uso.
 Se riscontrate qualche difficoltà riguardo la vostra lingua madre consultate il vostro servizio assistenza.
- nl Neem uw MOTOMed pas in gebruik nadat u de gebruiksaanwijzing hebt gelezen. Indien de gebruiksaanwijzing niet overeenstemt met uw moedertaal, aarzel dan niet ons te contacteren en een andere taalversie aan te vragen.
- sv Använd MOTOMeden endast, efter du har läst fungerande anvisningen.
 Om dig bör inte förstå den tillgängliga språkversionen, förfrågan var god a vägledning i ditt nationella språk.
- da MOTOMed må først anvendes, når brugsanvisningen er gennemlæst.
 Forstår du ikke vedlagte brugsanvisning, rekvirer en dansk vejledning hos ProTerapi.
- pl Przed skorzystaniem z urządzenia MOTOMed prosimy zapoznać się z instrukcją obsługi.
 Jeśli instrukcja obsługi jest napisana w języku obcym ządajcie Państwo instrukcji w języku przez Państwa znanym.
- ru Используйте MOTOMed только после того, как прочитаете инструкцию по эксплуатации. Если Вам не понятен язык, на котором написана инструкция, запросите, пожалуйста, на родном языке.

美しく、柔らかくそしてインテリジェント...

お買い上げありがとうございました！このMOTOmedの購入でお客様はとても良い選択をされました。この運動セラピー装置は最高の性能をご提供します。これは最新のコンピューター技術と共に動く、RECK社の革新的な高品質「Made in Germany」製品です。

MOTOmedはモーターでサポートされた運動セラピー装置であり、良い効果を出すことのできる、毎日の治療をお楽しみください。

この取扱い説明書でMOTOmedを知ってください。機能と操作を安全に導き、あなたの新しい運動セラピー装置の最適な使用のために数多いヒントとアイデアをご提供します。MOTOmedの使用開始前に 第2章にある 予防措置をお読みください。

ページ75 ご質問あるいはコメントがございましたら、いつでもRECK社の資格を持つMOTOmedアドバイザーチームにお問い合わせください、喜んでご対応します。

MOTOmedで多くの楽しみと運動をご経験ください。

ページ 5	序文	1
11	予防措置	2
17	目視検査	3
23	運搬、納入品目、使用開始、スタンバイ	4
33	操作	5
53	付属品	6
63	故障の修理	7
67	洗浄、メンテナンス、再使用、リサイクリング	8
69	技術データ、サイン	9
75	サービス	10
77	EMC情報	11
81	索引	12

- 6 本取り扱い説明書
- 7 使用目的
- 7 患者ターゲットグループ
- 7 正しい使用法
- 8 免責事項
- 8 治療目標
- 9 兆候(病症)
- 9 禁忌
- 10 臨床的効用
- 10 望ましくない副作用
- 10 重大な事柄

本取扱い説明書


使用開始前に必ず本取扱い説明書を注意深く読み、各項目には注意を払ってください。本取扱い説明書は後で使用が必要になった時のために正しく保管してください。


この取扱い説明書にある使用説明は全てのMOTOmed loop製品グループに適用します。

MOTOmed loop.l	注文番号260.010
MOTOmed loop.a	注文番号260.020
MOTOmed loop.la	注文番号260.030
MOTOmed loop.la prof	注文番号260.039
MOTOmed loop p.l	注文番号260.040
MOTOmed loop p.la	注文番号260.060
MOTOmed loop light.l	注文番号260.100
MOTOmed loop light.a	注文番号260.110
MOTOmed loop light.la	注文番号260.120
MOTOmed loop kidz.l	注文番号260.070
MOTOmed loop kidz.a	注文番号260.080
MOTOmed loop kidz.la	注文番号260.090

この取扱い説明書には危険の識別を助け、危険を防ぐ安全情報が含まれています。

二つの信号語およびそのシンボルが可能な危険性を目立つようになっています。

警告  中レベルの危険性を示し、防がないと死、あるいは（重症な）負傷を負う可能性があります。

注意  リスクのレベルが低い危険を示し、これを防がないと軽い、あるいは中レベルの負傷あるいは物が破損する可能性があります。
物の破損警告に使うこともできます。

次のシンボルは追加情報あるいは2次情報を示します：



MOTOmedの操作、あるいは付属部品およびMOTO medソフトウェアに関する追加情報。

ページ 77 他の箇所にある情報、あるいは図の参照(ここでは例えば77ページ)。

使用目的

MOTOmedは座った患者の下肢と上肢を動かす受動的、補助的でアクティブな運動に適しています。使用中に操作ユニットを使いMOTOmedを操作することができます。MOTOmedは持ち運びができるため、色々な場所で使用できます。

患者ターゲットグループ

MOTOmed loopは大人そして青少年に適しています。典型的な患者は15歳以上で、身長140-200cm、最大重量135kg、車椅子に拘束されているか、動きが制約されている。

使用目的にあった正しい使用

ここでは、ユーザーは安全な、安定した車椅子、あるいは安定した背の高さが十分にある椅子（車なしの）を運動セラピー装置の前に置いてトレーニングをします。

ユーザーは座ったポジションで、車椅子あるいは椅子は後ろに倒れない様にします。

MOTOmedは平らな硬い土台の上に置くことが大事です。

製造元が許可した、あるいは明示的に承認した附属品のみ取り付け、あるいは接続することができます。

一般事項

MOTOmedの使用は取扱説明書にある対処および安全注意事項を守ってのみ、そして説明にある、又はセラピー/医者による禁忌が適用されない時のみ可能です。

ペダルまたはアームクランクが動かず、脚または腕が挿入されていないか固定されていない場合にのみ、操作ユニットの操作以外は調整および変更が許されます。

MOTOmedは、プロフェッショナルな保健医療環境と在宅医療環境に適しています。

免責事項

メーカーおよび販売パートナーは次の場合責任を負いかねます：

- 不適切で誤った使用、目的に添わない使用
- 本取扱い説明書を無視した場合
- 意図的に損害を与えるまたは重度の過失
- 集中トレーニング、たとえば競技スポーツに使用
- 不適切な車椅子あるいは椅子を使用
- 担当専門医あるいはセラピストの指定するアプリケーションに反する使用
- 許可されていない付属部品を取り付ける
- MOTOmedにメーカーによって承認されていない人による修理あるいは変行を行った場合
- メーカーから配送された物以外の電源ケーブルをMOTOmedの運転に使用

治療目標

主に次の兆候における、運動欠如または運動不足による（その結果としての）損傷の回避、軽減、改善:

兆候(病症)

- 足（腕）の動きの大幅な機能ロスを伴う（痙攣性）麻痺症状あるいは神経筋肉性の病気（たとえば脳卒中、多発性硬化症、対麻痺、ポリオ後症候群、パーキンソン病、外傷性脳損傷、幼児脳性麻痺、脳性麻痺、脊髄二分脊椎）
- リウマチ、変形性関節症、膝/股関節置換、カプセル靭帯損傷後の状態などの整形外科の愁訴
- 心臓血管および代謝疾患（例えば、動脈硬化、2型真性糖尿病、高血圧、PAOD、骨粗鬆症）
- セラピー措置の補足、たとえば透析患者では、慢性閉塞性気管支炎および全体体力が非常に低い患者
- 足あるいは臓器の血液循環の欠陥
- その他の動きに制限のある、あるいは寝たきりにつながる他の病状

禁忌

試験研究から1名の被験者を除外した以外、臨床評価の枠内では発生しなかった。

運動療法の分野における長年の経験から、リスク分析の一環として、次の症状がある場合、トレーニングセッションの開始前に医師やセラピストと相談しなければなりません。

新しい関節損傷、関節置換/義肢の新しい取り付け、新生十字靭帯の断裂、新しい新鮮な膝および臀部TEP、重度の膝および股関節変形性関節症、関節剛性、極端な筋肉の短縮、股関節および肩の脱臼のリスク（例えば、亜脱臼肩）、急性血栓症、褥瘡および非常に重症の骨粗鬆症。

臨床的効用

患者にとってのMOTOmedデバイスの効用は、科学的に評価され、経験的に証明されています。

望ましくない副作用

MOTOmed運動療法装置を使用したトレーニングにより、**望ましくない副作用**は発生しているか、既知ではありません。

その他のリスク

MOTOmedの運動療法装置の原則は、アームあるいは脚トレイナーのクランクを定義された力で駆動する電気モータの機能に基づいています。電気および機能の安全性は、すべての安全指示が守られれば、MOTOmedの残りのリスクが最小限になるよう、広範囲にわたる措置をとることにより、メーカーが保証します。

ただし、回転するクランクは、不注意や安全指示に従わない、あるいはMOTOmedを誤用した場合に怪我をする可能性がありますから必ず注意してください。

安全指示を実行に移せない、または危険な状況を認識して回避することができないユーザーの場合、訓練は資格のある監督下でのみ行うことができます。

重大な事柄

規制(EU) 2017/745に基づく注記:

製品に関連して直接的または間接的に重大なインシデントが発生した、あるいはその可能性がある場合(たとえば、ユーザー/患者の健康の一次的または永続的な深刻な悪化)、直ちに製造元(vigilance@motomed.com)およびにユーザーと/または患者の国の管轄官庁に報告する必要があります。

注意



ページ11

MOTOmedの使用時には必ず第2章にある注意事項を守ってください。

一般事項

MOTOmedのトレーニングを各自の病状に合わせて調整します。メーカーまたはその販売パートナーによるトレーニングのヒントには拘束力はありません。MOTOmedをどのように様々な病気で使用するかは、正確に指定することはできません。これは可能な設定が年齢、身長、個人の状態、術後の負荷の可能性および一般的な状態に依存します。トレーニング機能の詳細についても同様です。

MOTOmedの初回運転は常にスペシャリストの指示および監督のもとに行ってください。初回トレーニングの前に、医師とセラピストと、トレーニングの性質、程度、強度およびタイミングについて話し合ってください。デバイスを起動するときは、MOTOmedの選択したトレーニングプログラムのプリセットにも注意してください。

ユーザーがMOTOmedの機能と操作を理解していること、トレーニング中にMOTOmedの操作ユニットに自分で到達し、操作、スイッチオフすることができること(特に前腕シェルを使った腕/上半身の訓練の場合)を確認してください。

それ以外の場合は、監督なしで訓練したり、足や腕を出したり入れたりしないで行ってください。この場合、常に監督として別の人が不可欠です。

許可されていない人(訪問者、ヘルパーなど)はトレーニングの間に車椅子、椅子あるいはMOTOmedに変更を加えることは許されません。装置のスタート後、ユーザーの健康状態により、最高回転数20回転/分が無理な場合、回転数を減らしてください。

ハンドルあるいは脚ガイドのフットシェルあるいはふくらはぎシェルは通常傷のない皮膚であれば接触できます。

固定用バンドを使う場合、靴下および/あるいは靴、長いパンツなどの衣服を着用してください。これにより、皮膚とフットシェルまたは固定用バンドとの直接接触を回避して、圧迫、皮膚刺激または擦り傷を防止します。

病状により、脚の位置、脚ガイドの調整により、擦り傷、圧傷または他の怪我の恐れがある場合、訓練はお勧めしません。但し、ユーザーが医者およびセラピストと話し合い予防措置(緩衝物等を取り付けるなど)をとった場合は別です。

特に、治療装置と接触している身体部分に開いた傷あるいは褥瘡の危険がある場合(たとえば敏感な組織または皮膚の状態に起因する場合)MOTOmedトレーニングは、医師およびセラピストと話し合った後のみ、または自己責任において可能です。メーカーはこの説明書に注意を払わないために起こった負傷に対し責任はおりません。

アルコール、ドラッグ、薬の使用の影響を受けて、健康リスクが増加する可能性があります。この場合、MOTOmedの使用はお勧めしません。

痛み、吐き気、循環器系の衰弱などの場合は、すぐに訓練を中止し、医師に相談してください。メーカーまたは販売代理店は、ユーザーによる間違った使用または過度の使用について一切責任を負いません。座った状態でのみ、脚を安全フットシェルに入れてください。立った状態で、全体重をかけてフットシェルに踏み込まないでください。1ペダルにつき25キロ以上(ペダル半径7cmの位置)の負担をかけないこと。

1方の脚あるいは腕、あるいは四肢の体重の差が大きい場合などの片側訓練は、最初は看護師のいる場でのみ行われます。片側の訓練は、ブレーキ抵抗の設定値を高くするか、メーカーが提供するその為のカウンターウェイトを使用して行ってください。

腕/上半身トレーニング

別々の腕/上半身トレーニングの場合は、安全フットシェルから足を取り外し、床や車椅子の足置きに置きます。

上肢の運動量測定に関する注意事項：

子供の場合、骨の安定性は依然として比較的低く、容易に骨折または俗にいう隆起骨折（不完全骨折）に至ることがあります。このような怪我のリスクを減らすために、上肢の運動量測定の際に手首がしっかりと支えられていることを確認してください。

あなたの診療所が推奨する手、手首および腕の調整装置が常に使用されていることを確認してください。

また、同様に、子供が運動トレーナーに対して正面に目を向けて座り前腕と手首の回転を避けることを確認してください。

正しいMOTOmedの接続がわからない場合、あるいは質問がある場合、当社のサービスセンターの担当者にお問い合わせください。

ページ75

安全および技術情報

MOTOmedは高度に専門化された運動療法装置であり、高パフォーマンススポーツでの使用および診断のために設計されていません。従って、そのためには医療的に認証され較正されている運動量測定器またはトレッドミルを推奨します。

適用に関して特定の知識はありません。ディスプレイを読んで操作することは、安全に操作するための前提条件です。

MOTOmedの使用には、製品固有の、例えばトレーニングなどによる知識は必要ありません。

表示された測定値は、トレンド表示またはユーザーへの心理的フィードバックにのみ使用します。

MOTOmedは医療用電気機器であるため、EMCに関する特別な予防措置が適用されます。設置および初運転中には、EMC情報を遵守しなければなりません。

ページ77

子供は監督者なしでMOTOmedを使うことはできません。監督者のいない子供はMOTOmedに近づけさせないでください。

動物の負傷を防ぐために、動物をMOTOmedに近づけさせないでください。

大きな取付部や折りたたみ式でない、取り外し不可能なフットレスト付きの電動車椅子、スタンドアップ式車椅子、スポーツ用車椅子などは適切ではないかもしれませんし、特別な平な小型のデバイススタンドが移動するのに必要かもしれません。

MOTOmedがオンの時にのみトレーニングをしてください。
MOTOmedを立てて使用しないでください。

運動中、あるいは脚や腕が固定されている間は、MOTOmedの位置を変更しないでください。

注意



装置が倒れて怪我をする危険

運搬用ハンドルは、装置を移動するためにのみあり、サポート用に設計されていません。

MOTOmedに横からの負荷をかけないこと。部分的または全体重で（たとえばサポートしたり引っ張り上げるなど）ハンドルとホールドグリップに負荷を掛けないでください。ハンドルとホールドグリップはトレーニング中に手で握るためにのみ取り付けられています。

注意



回転するペダルクランクおよび可動部分による負傷の危険

ペダルクランクが回転中は、MOTOmedの機械的な調整（ペダル半径、ハンドルとホールドグリップあるいはアーム/上体のトレーナーなどの高さ調整など）を行わないでください。

操作ユニットのボタンを操作するときも、回転ペダルクランクに注意してください。

回転するペダルクランクでは、ハウジングとペダルクランクの間に指を挟まないように注意してください。

動いている部分を絶対に掴まないこと！

装置をスタートする前に、脚が挿入されている場合、ハンドルと衝突しないか確認してください。



ペダル半径を変更する場合、力のバランスが変わる可能性があります。



赤いストップボタンでも、オン/オフボタンでもMOTOmedをオフにできない場合は、直ちに速度を1回転/分に下げてトレーニングを終了するか、または電源ケーブルをソケットから外します。エラーが修正された時のみ、再度トレーニングを開始することができます。



たとえば携帯電話やアマチュア無線局といったポータブルおよびモバイルRF通信デバイスは、MOTOmed機能に影響を与える可能性があります。その様なデバイスは、横にあるシンボルの表示があり、識別できます。

注意



ハウジング部分の過熱の危険

直射日光が長く当たる場合、ハウジングの一部が過熱する可能性がある為、MOTOmedを適切な場所に配置してください。



操作ユニットのハウジングの表面温度は、電子機器の放熱のため周囲温度よりも13°C高くなります。したがって、直射日光がなくても最大許容可能な操作ユニットのボタンにおける周囲温度は(40°C)は53°Cにまでなります。ユーザーはこの温度に短い接触をして損傷を引き起こす可能性があるため、保護のための適切な措置をとる必要があります。

注意



モーターおよびエレクトロニクスの破損の危険

受動的に設定された回転動作に無理に対抗して押さないでください。

警告



感電の危険

MOTOmedを絶対にカバーを取り外した状態で使用しないこと。絶対にハウジングを開いたり、金属物をMOTOmedに挿入しないこと。MOTOmedを開くことは適切な専門訓練を受けた人のみに許されません。MOTOmedを開く前に必ず電源プラグを抜いてください！MOTOmedは絶対に濡れた、あるいは湿った環境で使用しないこと。MOTOmedは水またはスチームに接触させないこと。MOTOmedに何らかの物質や液体が入った場合は、資格のある人にチェックさせてから使用してください。

駆動部分にオイルが絶対入らない様に注意してください。

メンテナンスは訓練および知識、経験によりメンテナンスを評価できる、影響や危険の可能性を識別できる専門家の指導そして監視下で行うこと。

MOTOmedはメーカーの許可なしに変更を加えることはできません。

追加取付、変更にはオリジナルパーツと純正アクセサリのみ使用可能です。

商業施設では電気設備および機器類の同業者協会の事故防止規則を守ってください。

警告



包装材料による負傷の危険

梱包材を不注意に置きっぱなしにしないこと。プラスチックフィルム、ビニール袋、発泡スチロール部品などは子供にとって危険なおもちゃになることがあります。

MOTOmedを第三者に引き渡す場合、本取扱説明書を一緒に添えてください。

目視検査

トレーニング開始前のMOTOmedの目視検査の説明

あなたのMOTOmedは高品質の医療機器であり、医療機器に適用される特に高度の安全基準に従って設計され、製造されています。法的要件に従い、医療機器のメーカーは、次のページに記載されている多数の安全指示をユーザに出さなければなりません。

指示が沢山あるということは、MOTOmedを使用する場合、日常生活で使用される他のデバイスより高いリスクが存在するという事実に起因するものではありません。むしろ、ほとんどの指示は、医療機器に有効な非常に厳格な規制要件を遵守し、ユーザと患者の安全を確保するための結果であり、当社はお客様のために誠実にこれに従い実行したためです。

いろいろな指示が言う迄もないように見えても、次のページを慎重に読み、その指示に従うようにしていただくことにより、お使いのMOTOmedが長期にわたって最高レベルの信頼できるヘルプであり、あり続けるためです。

訓練を開始する前に目視検査を行い装置が適切な状態にあることを確認してください。以下に説明するコントロールは、しばらくしてから実行します。

検査ステップ	目視検査でエラーが見つかった場合の対処	検査ステップの根拠
1.電気供給および電源部品の検査		
<p>電源接続ケーブルに損傷がないか、たとえば擦り傷、圧力傷、ボロボロな場所あるいは折れ曲がった箇所がないか？</p>	<p>電気接続箇所の損害に気が付いたらば交換します。</p> <p>ケーブルはMOTOmedのために検査し、認証を受けているため電気接続ケーブルの損傷を修理することは禁じられており、RECK社の純正交換部品と交換してください。RECK社のサービスパートナーにお問い合わせください。</p>	<p>電源ケーブルが損傷すると、損傷した部分に直接触れた場合や損傷した部分がMOTOmedハウジングに接触した場合に感電する危険があります。</p> <p>従って、壊れた電源接続ケーブルは絶対に使用することはできません！</p>
<p>接続ケーブルは次のように取り付けてください。</p> <p>a) 装置と接触していない。</p> <p>b) ケーブルは他の物/装置が上に乗って押さえつけられていない。</p> <p>c) クランクに引っかかからない。</p> <p>d) その他機械的に損傷をうけないようになっている。</p> <p>e) 誰もそのケーブルにつまづかない。</p> <p>f) いつでもケーブルに接近することができる。</p>	<p>電線が裸でむき出ているあるいは絶縁の損傷がある場合はそのケーブルは絶対に使わないこと。</p> <p>電源接続ケーブルは、絶対に人がそれにつまづく、あるいはケーブルに機械的にダメージを与えることが無いように取り付けてください。</p> <p>電源ケーブルは、いつでも自由にアクセスできるように配置する必要があります。</p>	<p>電源ケーブルが損傷すると、損傷した部分に直接触れた場合や損傷した部分がMOTOmedハウジングに接触した場合に感電する危険があります。</p> <p>MOTOmedの機能不都合があった場合、監督者は支障のない状態で電源から切り離すことができなければなりません。</p>
2.装置状態のコントロール		
<p>デバイス、操作ユニット、アクセサリは目に見える損傷がありませんか？</p>	<p>欠陥のある不良部品を修理できるかどうか、または交換が必要かどうかを確認してください。</p>	<p>装置の一部が損傷した場合、その安全機能を保証することができなくなります。</p> <p>操作ユニットに目に見える損傷（ひび割れ、ハウジング部品の破損）がある場合は、操作ユニットを交換する必要があります。</p>
<p>ハンドルの表面コーティングに傷がついていませんか？</p>	<p>ハンドルはメーカーのサービスに交換させてください。</p>	<p>ハンドルのPVCコーティングは、ユーザーに電気に対する追加保護を提供します。</p>

検査ステップ	目視検査でエラーが見つかった場合の対処	検査ステップの根拠
装置に汚れが付いていますか？	装置を使用する前に、手入れ指示に従って汚れを除去する必要があります。	汚れを除去することにより病原菌の感染リスクを減らします。
ユーザーが使用する可能性がある付属品はユーザーに適しており、適切ですか？	オプションの腕カフは小さすぎるか大きすぎる場合、これを適切な物と交換してください。付属品の選択と使用では、例えば、皮膚に擦れ傷が発生しない様に気をつけてください。	誤って選択されたアクセサリは、色々な場合で、アクセサリが意図した目的を果たさないか、怪我を負う危険があります。従ってトレーニングを開始する前に評価してください。この評価を自分で行うことができないユーザーの場合、介護者が評価を行う必要があります。
一人でやる脚の訓練の場合、ハンドルをホールド位置に配置し、ハンドルを握ることができるよう、衝突しない様に配置してありますか？	ハンドルをホールド位置にし、挿入した脚がハンドルに触れないようにしてください(ページ45)。	ハンドルは、脚のトレーニング中にはより良いグリップを提供し、足にはより自由なスペースを提供します。
トレーニングには適切な衣服を着用しますか？	例えば、幅の広いパンツ、長いショール、スカーフ、長めのネックレス、宝飾品、長い髪などペダルの周りに巻き付ける可能性がある物(特にアームトレーナーを使用する場合)は使用しないこと。紐付き靴ははかないこと。長い髪は腕/上半身トレーニングの使用前に適切にまとめるあるいは頭カバーで守ります。	体に合っていない衣服は脚シェル/クランクに巻き込まれ、負傷する危険があります。クランクが衣服や髪の毛を巻き込んだ場合は、すぐに赤い停止ボタンまたはオン/オフボタンを押して、クランクの動きが中断したところで、巻き込んだ物をさらに危険をおかすことなく取り外します。
意図する動きが他の物体/ハウジング部品にぶつかることが無い様に、装置を設置し調整してありますか？ 一人で脚トレーニングをする場合、足がハンドルにぶつからない様に、ハンドルがホールド位置にあり、衝突しない位置にありますか？	ハンドルは挿入した脚がハンドルと衝突しない位置に設定します(ページ45)。	負傷する危険が無い様にMOTOmedはトレーニング中に周囲にある他の物体と衝突しない様に設置し調整します。

検査ステップ	目視検査でエラーが見つかった場合の対処	検査ステップの根拠
<p>垂直調整が安全ノブでしっかりとロックされ、固定ネジで締め付けられていますか？</p>	<p>希望の高さでクリック音が聞こえるまで垂直調整をゆっくりと上下に動かして行い、しっかりと固定ネジを締めます(ページ35)。</p>	<p>しっかりと締めていないネジはトレーニング中に装置から外れる危険があります。 トレーニング中に装置の部品が緩んだ場合、トレーニングを直ぐにストップボタンを押して中止し、緩んだ部品を正しく固定します。</p>
<p>3.最善のトレーニング条件であるか点検する</p>		
<p>装置は平な床の上にあり、揺れたり、傾いたり転倒しないですか？</p>	<p>適切な設置場所を選び、トレーニング中に装置が揺れたり、傾斜したり転倒しない様になります。場合によっては、小さな装置のスタンド脚を調整してください。</p>	<p>ユーザー/患者に負傷の危険がありますので、装置は揺れたり、傾斜したり、転倒しないこと。</p>
<p>装置がスライドしない様に床が十分な接着性を持っていますか？</p>	<p>滑らない床を選択し、装置と座るシートが安全に固定されていることを確認してください。</p>	<p>MOTOmedは、滑りやすい床(タイル、ラミネート、寄木張りの床など)の上にある場合、位置がずれてくることがあります。</p>
<p>装置の前で座る車椅子あるいは椅子がトレーニングの最中に傾斜したり、転倒する、あるいは転がって動いてしまわない様に設置してありますか？</p>	<p>重度の硬直(痙攣)や積極的な運動のために車椅子を後方に傾斜させて転がすことがないとは限らない場合は、車椅子傾斜防止装置を使用する必要があります。</p> <p>できればアームの付いた、安定した、座りの良い椅子のみ使用することができます。プレーキのないローラーが付いた椅子はMOTOmedのトレーニングには使えません。</p>	<p>重症な痙性が足にある場合、ペダルの駆動力によって座席が移動または傾く可能性があります。これは適切な手段で防がないと、負傷する危険があります。</p> <p>ローラーが付いた椅子はトレーニング中にずれ込む可能性があります。</p>
<p>車椅子に座ってトレーニングをする場合：トレーニングを始める前に車椅子のプレーキをかけたか？</p>	<p>プレーキをかけ、車椅子が本当に動かないかコントロールします。</p>	<p>車椅子はトレーニング中に移動してしまわないこと。</p>

検査ステップ	目視検査でエラーが見つかった場合の対処	検査ステップの根拠
電気車椅子をトレーニングの座席として使う場合：車椅子のスイッチは切っており、ブレーキがかかっていますか？	電気車椅子のスイッチを切りブレーキをかけます。そして、車椅子が本当に動かないで安全かコントロールします。	車椅子はトレーニング中に移動してしまわないこと。
クランク/フットシェルを自由に動かせますか？トレーニング中にクランクが他の物に触れたり巻きあげたりする危険はありませんか？	後でクランクの回転時にクランクに引っかかったり、クランクの動きを妨害する可能性のあるクランクの周りの物をすべて除去してください。例えば、特に頭髮、スカーフあるいは装飾品はクランクに巻き込まれない様に注意してください。	モーターで駆動する回転部分は、特に回転部分に何も引き込まれない様に注意してください。ここでは、料理器具あるいはハンドドリルと同様な注意を払ってください。
クランク半径が両側で同じ調整がされていますか？	左側のクランクは右のクランクの長さとは異なる調整がされている場合、クランクの長さを両方同じに調整します。(ページ43)	異なるクランクの長さでは、有効レバーの長さが異なるため、異なる力がクランクに作用し、非円形運動が生じます。従って、レバーの長さを両側でできるだけ同じにしてください。
脚あるいは腕/上半身トレーニングではユーザーの足/腕を安全にフットシェルあるいは前腕シェルに固定していますか？	脚/腕の固定装置を「準備」の章(ページ34)に説明があるように取付けます。	脚/腕はトレーニングの間、間違えてフットシェルから、あるいは前腕シェルから抜けない様にします。
他の医療機器として許可されていない電気機器が患者の手の届く範囲にありますか？	医療機器として認証されていない他のすべての電気機器を、ユーザーの手の届くところ(患者エリア)から除去します。	運動中に他の電気接続をしている電気器具に患者が触れると、MOTOmedの特に高い保護絶縁性が感電に対する保護の決め手になるのではなく、ユーザが接続する他の器具の特性によって決められます。患者がトレーニング中にMOTOmedの高水準の医療製品安全基準によって効果的に保護されるよう、医療機器として認可されていない電気機器はトレーニングするユーザーの手の届く範囲には置かないこと。

- 24 運搬
- 25 納入品目
- 30 使用開始
- 31 スタンバイ

運搬

MOTOmedは2つの大きな運搬用ロールを備えており、それにより簡単に屋内で移動することができます。

敏感な床表面への損傷を避けるために、ローラはゴムリングで囲まれています。

- ページ31 運搬をする前に電源ケーブルを完全に取り外してください。
運搬するにはMOTOmedの運搬用グリップをしっかりと握り①注意深く大きな装置フットを思いどおしく傾け、MOTOmedが簡単に大きな運搬ローラで②軽く引っ張れるようにします。

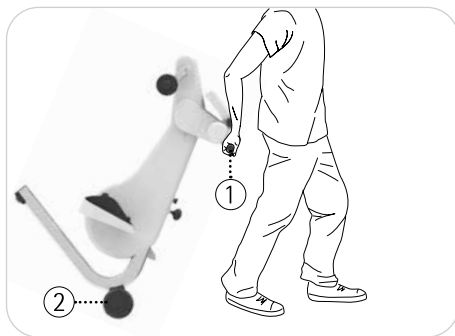


図4.1

MOTOmedが閾の上を越えなければならない場合、両方の運搬用ローラが②同時に（平行して）閾の上を超えるようにしてください。

注意



振動による損害の危険

MOTOmedを平らでない床の上（たとえば敷石の上）を運搬しない様にする。MOTOmedのエレクトロニック部およびハウジングにダメージが加わる恐れがあります。

長距離や不安定な地上を輸送する場合は、適切な輸送手段（台車など）を使用します。

納入品目

- MOTOmed loop
- 電源コード、長さ2.50m
- 六角棒スパナ SW4
- MOTOmed loop モデルの取扱説明書

全てのMOTOmed loopモデルの装備および機能：

- ツールなしで調整可能な脚あるいは腕/上半身トレーナーの高さ調整。レッグトレーナーのペダル軸の高さは30cm~45cm領域で調整可能 (床から測定)
- カラータッチスクリーン付きの傾斜調整可能で折りたたみ可能な操作ユニット (7インチ)
- 安定した、しっかりと立つ金属構造
- 閉じた、手入れが簡単で消毒可能なプラスチックボディ (PC/ABS)
- メンテナンス無用のジョイントとベアリング
- プラスチックコーティングされた輸送用ハンドル
- 大型の輸送用キャスター (Ø 13 cm)で簡単に移動可能
- デバイススタンドの足幅を38.5 cmに縮小
- シリアルインターフェース、USBインターフェース
- 受動的、支援的、能動的なトレーニング
- 電子の開始補助
- 0から20までのブレーキ抵抗(能動的)
- 1から10までのモーター出力レベル (受動的)
- 0から120分まで事前設定可能なセラピー時間
- 調整可能な自動運動保護および痙縮緩和プログラム
- 安全停止
- 左右対称トレーニング
- 静かで、穏やかで、調和のとれた同心性(駆動を緩める)
- 穏やかな動きの開始と停止
- トレーニング中およびトレーニング後の詳細なフィードバック
- 事前設定可能なトレーニングパラメータ
- 言語選択

モデルにより異なる装備と機能：

MOTOmed loop.l

- マジックテープ付きプラスチックコーティングされた安全フットシエル
- 人間工学に基づいたソフトグリップハンドル
- 2段階のペダル半径調整(7cmまたは12.5 cm)
- 1～60回転/分のパッシブ速度
- セラピーとモチベーションプログラム
- トレーニングデータのエクスポートと独自のトレーニングプログラムのインポート
- ゲーム
- USBによるスライドショー(USBスティックなしで納品)

MOTOmed loop.a

- ソフトグリップハンドル
- 1～60回転/分のパッシブ速度
- セラピーとモチベーションプログラム
- トレーニングデータのエクスポートと独自のトレーニングプログラムのインポート
- ゲーム
- USBによるスライドショー(USBスティックなしで納品)

MOTOmed loop.la

- マジックテープ付きプラスチックコーティングされた安全フットシエル
- ソフトグリップハンドル
- 2段階のペダル半径調整(7cmまたは12.5 cm)
- タッチにより脚トレーニングから腕トレーニングへ変更
- 1～60回転/分のパッシブ速度
- セラピーとモチベーションプログラム
- トレーニングデータのエクスポートと独自のトレーニングプログラムのインポート
- ゲーム
- USBによるスライドショー(USBスティックなしで納品)

MOTOmed loop.la prof

- プラスチックコーティングされた安全フットシェル
- プラスチックコーティングされたふくらはぎシェルと消毒可能な固定ストラップを備えたレッグガイド
- 脚クイック固定「QuickFix」
- クイック交換技術を備えた プラスチックコーティングされたハンドル
- 高さ調整用ガススプリングサポート
- ペダル半径の正確な調整(脚トレナー、ペア)
- タッチにより脚トレニングから腕トレニングへ変更
- 1~60回転/分のパッシブ速度
- セラピーとモチベーションプログラム
- トレーニングデータのエクスポートと独自のトレーニングプログラムのインポート
- ゲーム
- USBによるスライドショー(USBスティックなしで納品)

MOTOmed loop p.l

- マジックテープ付きプラスチックコーティングされた安全フットシェル
- 人間工学に基づいたソフトグリップハンドル
- 2段階のペダル半径調整(7cmまたは12.5cm)
- 1~90回転/分のパッシブ速度
- セラピーとモチベーションプログラム
- トレーニングデータのエクスポートと独自のトレーニングプログラムのインポート
- ゲーム
- USBによるスライドショー(USBスティックなしで納品)

MOTOmed loop p.la

- マジックテープ付きプラスチックコーティングされた安全フットシェル
- ソフトグリップハンドル
- 2段階のペダル半径調整(7cmまたは12.5cm)
- タッチにより脚トレーニングから腕トレーニングへ変更
- 1~90回転/分のパッシブ速度
- セラピーとモチベーションプログラム
- トレーニングデータのエクスポートと独自のトレーニングプログラムのインポート
- ゲーム
- USBによるスライドショー(USBスティックなしで納品)

MOTOmed loop light.l

- マジックテープ付きソフトグリップ安全フットシェル
- 人間工学に基づいたソフトグリップハンドル
- 2段階のペダル半径調整(7cmまたは12.5cm)
- 1~60回転/分のパッシブ速度

MOTOmed loop light.a

- ソフトグリップハンドル
- 1~60回転/分のパッシブ速度

MOTOmed loop light.la

- マジックテープ付きソフトグリップ安全フットシェル
- ソフトグリップハンドル
- 2段階のペダル半径調整(7cmまたは12.5cm)
- タッチにより脚トレーニングから腕トレーニングへ変更
- 1~60回転/分のパッシブ速度

MOTOmed loop kidz.l

- マジックテープ付きプラスチックコーティングされた安全フットシエル
- 人間工学に基づいたソフトグリップハンドル
- 2段階のペダル半径調整(7cmまたは12.5cm)
- 1~60回転/分のパッシブ速度
- セラピーとモチベーションプログラム
- トレーニングデータのエクスポートと独自のトレーニングプログラムのインポート
- ゲーム
- USBによるスライドショー (USBスティックなしで納品)
- 子供にあったソフトウェア

MOTOmed loop kidz.a

- ソフトグリップハンドル
- 1~60回転/分のパッシブ速度
- セラピーとモチベーションプログラム
- トレーニングデータのエクスポートと独自のトレーニングプログラムのインポート
- ゲーム
- USBによるスライドショー(USBスティックなしで納品)
- 子供にあったソフトウェア

MOTOmed loop kidz.la

- マジックテープ付きプラスチックコーティングされた安全フットシエル
- ソフトグリップハンドル
- 2段階のペダル半径調整(7cmまたは12.5cm)
- タッチにより脚トレーニングから腕トレーニングへ変更
- 1~60回転/分のパッシブ速度
- セラピーとモチベーションプログラム
- トレーニングデータのエクスポートと独自のトレーニングプログラムのインポート
- ゲーム
- USBによるスライドショー(USBスティックなしで納品)
- 子供にあったソフトウェア

使用開始

初めて使用する前または長い移動の後にはMOTOmedを室温で少なくとも3時間放置します。

MOTOmed loop.Iの取っ手の調整

MOTOmed loop.Iモデルは、取っ手が下を向いた状態で納品されます。使用開始前に、取っ手を180度上に回す必要があります。

左側の安全フットシェルの下側にあるクリップから同梱のアレンキーSW4 ①を緩めます。六角レンチで両方のハンドル③のネジ②を緩めます。ネジを完全に緩め抜き、安全な場所に保管してください。両端が上を向くように、両方の取っ手を180度回転させます。前に六角レンチを使用して、取り外したネジを再度挿入し、抵抗を感じるまで締めます。六角レンチをホルダーにクリップインします。

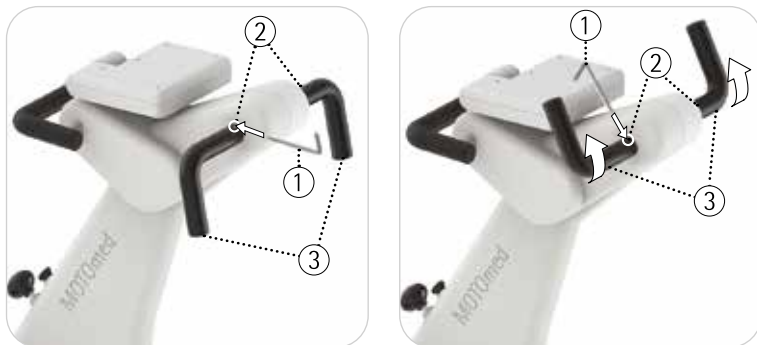


図4.2, 4.3

- 図4.4, 4.5を参照 操作ユニットを①ストッパーまで開きます。必要に応じて操作ユニットを①自由に前方に傾けることができます。
- ページ47 アーム/上半身トレーニングではハンドルを逆の位置に持っていきます③。
- ページ45 足のトレーニングではハンドルを ホールド位置のままにしておきます②。

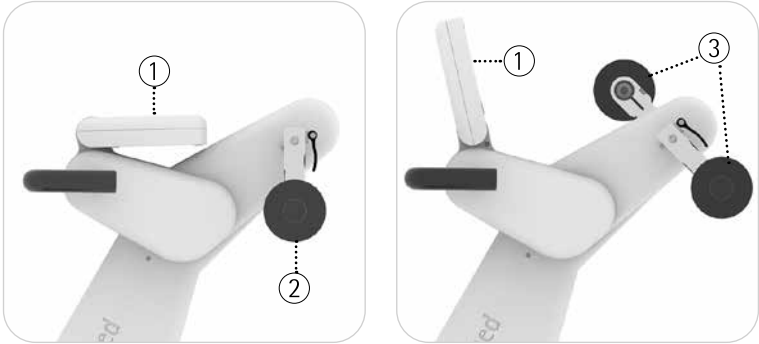


図4.4, 4.5

スタンバイ

ページ45 まず電源接続ケーブル①をMOTOmedのホイールハブにあるIECコネクタ②に接続します。接続が安全であることを確認してください。次に、電源コードの①メインプラグ③を室内のソケットに差し込みます。

メインプラグと③IECコネクタ②は常に自由にアクセスでき、MOTOmedの電源を支障なく抜き挿しできる必要があります。

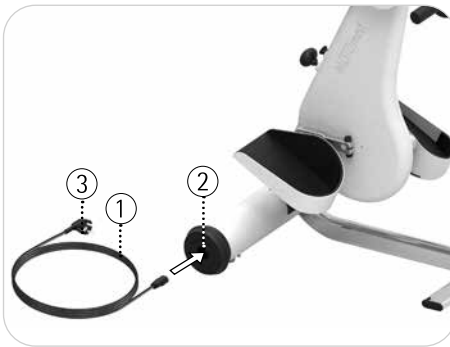


図4.6

MOTOmedはこれで使用準備が完了です(スタンバイ)。

図4.7を参照 操作ユニット上の緑色に発光するLED表示④はスタンバイ状態であることを意味します。

「オン/オフボタン」⑤を押して、MOTOmedのスイッチを入れます。MOTOmedはスイッチを入れた後、遅くとも30秒でスタンバイ状態になります。

メインスクリーンが表示されます。もう一度「オン/オフボタン」⑤を押すとスクリーンはオフになります。

MOTOmedはこれでスリープモードになります。MOTOmedを完全に使用準備完了(スタンバイ)の状態にするには、「オン/オフ」ボタン⑤を3秒間押します。

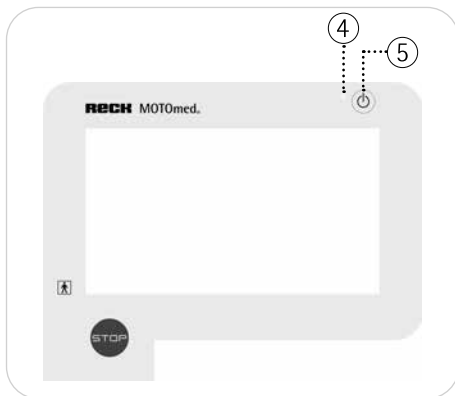


図4.7

エネルギー節約のためにトレーニングの終了後あるいは最後の入力の15分後にスクリーンセーバーが現れます。30分後にはスクリーンが消え、そのまた15分後にはMOTOmedは使用準備完了(スタンバイ)になります。

MOTOmedは、継続的なスタンバイ作動として設計されています。修理、クリーニングあるいは運搬のために、完全に電気を切り離したい場合は、電源プラグを抜いてください。

34	序文
34	準備
34	操作ユニット
35	トレーニング運転
35	垂直調整
36	フリートレーニング
36	MOTOmed loop.l
36	MOTOmed loop.a
37	MOTOmed loop.la
42	能動的/受動的トレーニング
42	モータースピード
43	抵抗
43	ペダル半径
44	脚トレーニング
45	座席との間隔
46	搭乗ヘルプ
47	腕/上半身トレーニング
48	自動痙攣スイッチの使用説明
49	モータートルクあるいはモーター出力の設定
52	痙攣ギアの設定

序文

次のページにはMOTOmedの操作を詳しく説明します。

準備

大きなスタンド脚を備えたMOTOmedをできるだけ壁のすぐ横に置きます。できるだけMOTOmedの近くで車椅子か安定性のある椅子に座り、トレーニング時には（フットシェルが体から一番離れた状態で）膝関節が完全に伸びた状態にならない様になります。

ページ45

警告



負傷の危険!

お使いの車椅子あるいは椅子が傾かない、あるいは動いて機械から離れてしまわない様に設置します。

必要に応じ、足を安全フットシェルの中にある固定装置および下腿は脚ガイドのふくらはぎシェルで（ある場合）固定してください。

操作ユニット

MOTOmedの操作ユニット①にはしっかりとした「オン/オフ」ボタン②および「ストップ」ボタン③が付いています。メニューにある他の全ての機能および操作はタッチスクリーン④を使い、指の圧力に反応しますから、それで操作します。

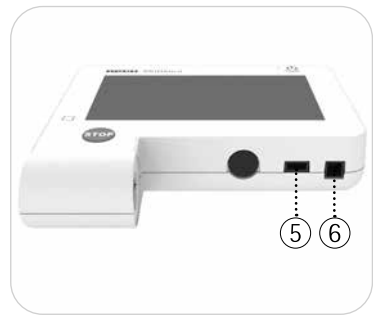
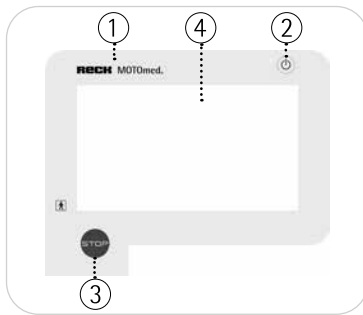


図5.1, 5.2

図5.2を参照 ハウジングの下側にUSBのインターフェイス⑤とシリアル・インターフェイス⑥が各1つずつあります。.

USBインターフェイス⑤にはメモリスティックを接続することができます。これは、トレーニングデータを保存したり、トレーニング中に自分の写真を表示したりするために使用され(製品番号260.1**ではありません)、必要に応じてソフトウェアの更新に使用されます。

トレーニング運転

垂直調整

脚トレーニングあるいは腕/上半身トレーニングの高さをご自分に適した設定で選びます。

固定用ネジ②を緩め、固定ロックを引っ張ります③。MOTOmed①を正しい高さで設定します。

位置は5つの設定位置から選択することができます。固定ボタン③がロックすることで分かります。そこで固定ネジ②を再び抵抗を感じるまで締めます。

注釈：

この場合、脚とハンドル/ホールドグリップ間で衝突がないことを常に注意してください。



図5.3, 5.4

フリートレーニング

図5.1を参照 「オン/オフ」 ボタン②を押してMOTOmed のスイッチを入れてください。

MOTOmedは始動し、スタンバイの状態に入ります。

ホームスクリーンが現れます。

MOTOmed loop.l

ホームスクリーンに、脚トレーナー用のボタンが現れます。



図5.5

脚トレーナーのボタンを押すとトレーニングが開始します。

フットシェルは設定された受動的な速度で徐々に動き始めます。この際速度は直線的にゆっくりと増加します。最大、最終速度には10秒後に到達します。

MOTOmed loop.a

ホームスクリーンに、腕/上半身トレーナーのボタンが現れます。



図5.6

腕/上半身トレーナーのボタンを押すとトレーニングがはじまります。ハンドルは設定された受動的な速度で徐々に動き始めます。この際速度は直線的にゆっくりと増加します。最大、最終速度には10秒後に到達します。

MOTOmed loop.la

ホームスクリーンに、脚トレーナーと腕/上半身トレーナーのボタンが現れます。



図5.7

脚トレーニングでは腕トレーナーのクランクが前設定したポジションでロックされ、ハンドルとして使います。

腕/上半身トレーニングの場合、安全フットシェルが自由に動くようになります。

最後に使ったトレーナーが大きく表示されます。

最後に使った設定でトレーニングを開始します

最後に使ったトレーナーで再トレーニングする場合、その設定を再び選択してすぐにトレーニングを開始することができます。フットシェルとハンドルは設定された受動的な速度で徐々に動き始めます。

脚トレーニングから腕/上半身トレーニングへの切り替え

装置がその前に脚トレーニングに使った後に、上半身トレーニングをしたい場合、駆動をその様に切り替えなければなりません。

駆動はここで脚から腕/上半身トレーニングに切り替えられると通報があり、変換プロセスが始まります。



図5.8

必要に応じて搭乗ヘルプを使い脚を取り出します。

ハンドルの変換の説明に従い、これに対し で答えます。



図5.9



図5.10



図5.11

MOTOmedは自動的にアーム/上半身の運動のためのハンドルのロックを解除します。

トレーニングはカウントダウン(5秒)後にスタートし、ハンドルはゆっくり動いて設定された受動的な速度で動きます

腕/上半身トレーニングから脚トレーニングへの切り替え

脚トレーニングをしたい時、ただし装置がその前に腕/上半身トレーニングに使われていた場合、駆動をその様に切り替えます。

駆動は腕/上半身から脚トレーニングに切り替えると知らせがあり、変換プロセスが開始します。



図5.12

図5.13を参照 このハンドルは、脚のトレーニングにおいて、支えまたは安定のためのハンドルとして使用されます。したがって、ハンドルを快適な停止位置に移動します。


スクリーン上の指示に従い、それを  で確認します。



図5.13

MOTOmedには8つのホールド位置があります。
まず、適切なハンドルを希望の位置に移動してください。



警告 負傷の危険!

膝との衝突を避けるためにハンドルをあまり深い位置に置かないでください。




図5.14

ハンドルが自動的にロックしない場合は、ハンドルが感覚的にカッチと定まるまで前後に少し動かします。



図5.15

ボタンを選択して、 位置を修正することができます。


スクリーン上の指示に従い、それを で確認します。



図5.16



図5.17



図5.18

トレーニングはカウントダウン(5秒)後にスタートし、フットシェルはゆっくりと設定された受動的な速度で動きます。

注意



回転するペダルクランクによる負傷の危険

ペダルクランクが回転中は ハンドルを握らないでください。

ハンドルの高さの調整はメニューで行うことができます。腕/上半身クランクは停止ポジションでロックされます。続いて、駆動は脚トレーニングに切り替わり、トレーニングを開始することができます。必要に応じ、搭乗ヘルプを使って足を挿入します。フットシェルは設定された受動的な速度で徐々に動き始めます。この時、速度は直線的にゆっくりと増加します。最大、最終速度は早くとも10秒後に到達します。

能動的/受動的トレーニング



ウォームアップフェーズの後、続けてモーターで受動的に運動させることができます(受動トレーニング)、あるいは何時でもアクティブに切り変えることができます(能動トレーニング)。

モータースピード

受動トレーニング運転では速度は11~60回転/分、パーキンソン病モデルloop pでは1~90回転/分に変更できます。この時、速度は直線的にゆっくりと変化します。

抵抗

トレーニング運転では抵抗を0～20に変更することができます。

- 図5.1を参照 赤の「ストップ」ボタン③でトレーニングを何時でも中止することができます。
- 制御ボタンを押すことによりホームスクリーンに戻ることができます。
- 制御ボタンを押すことにより一歩もとに戻ることができます。

ペダル半径

MOTOmedにおける脚トレーニングでは2段階のペダル半径設定が可能です：

レベル1: 7cm(スタンダード) レベル2: 12.5cm
腕トレイナーにおけるペダル半径の設定は10cmです。

注意



負傷の危険!

ペダル半径はスイッチを切ったMOTOmedで、足が入っていない時にのみ調整をすることができます。

注意



MOTOmedの破損の危険!

ツールを使うときは破損をしたり傷をつけない様にしてください。安全フットシェルを落とさないでください。

- 図5.19, 5.20を参照 ペダル半径を変更するには、同梱の六角スパナSW4で、六角ソケットネジを閉めます①。
- 安全フットシェル②を今までのペダル棒の④開口部から取り出し、空の開口部にある黒のプラスチックカバー③を除去します。安全フットシェル②を今まで空いていたペダル棒の開口部④に挿入しプラスチックカバー③を空になった開口部に取り付けます。六角ソケットネジ①を再度硬く締めます。

この手順を反対側にある安全フットシェルでも繰り返します。六角ソケットネジが両側ともしっかりと絞められていることを確認してください。

注釈：

調和のとれた動きを保証するために、両側で同じペダル半径に調整されていることを、確認してください。

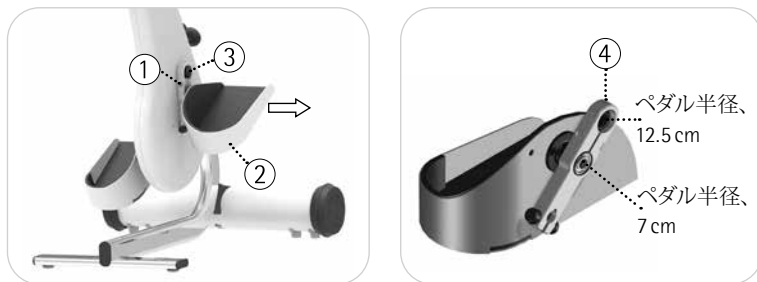


図5.19, 5.20



ボールベアリングの締め付けリングにある六角ソケットネジは、安全フットシェルがボールベアリング締め付けリングから緩むことがないようにしっかりと締め付けてください。

六角ソケットネジは安全フットシェルがまだ軽く動く程度に締めてください。

次のように検査をします。:安全フットシェルを水平ポジションに保ちこれを放します。もし安全フットシェルが約1-2回振れた後、動かなくなった場合、この六角ソケットネジが正しく締められていることとなります。

六角ソケットネジを硬く締めすぎるとベアリングの締め付けリングが安全フットシェルのベアリングに強く押され、ほとんど動かなくなる可能性があります。

代わりに、トルクレンチを使用し、ネジを9Nmまで締めます。ボールベアリング締め付けリングのねじが正しく締め付けられていない場合は、RECK-Technik GmbH & Co. KG社の保証の対象となりません。

脚トレニング

ホームスクリーンで脚トレニング操作ボタンを押します。

ページ37, 39 MOTomedが自動的に脚トレニングに切り換えられるまで待ってください。

注意



回転するペダルクランクによる負傷の危険

ペダルクランクが回転中はハンドルを握らないこと。

座席との距離

MOTOmedと座席との距離を、足が常に軽く曲がるように選択します。車椅子あるいは安定した椅子に、膝関節がトレーニング中に（フットシェル②）と体との距離が一番大きな状態で完全に伸びないようにMOTOmedになるべく近くに座ります。

脚トレーニング中、ハンドル/あるいはグリップ①をしっかり握ります。

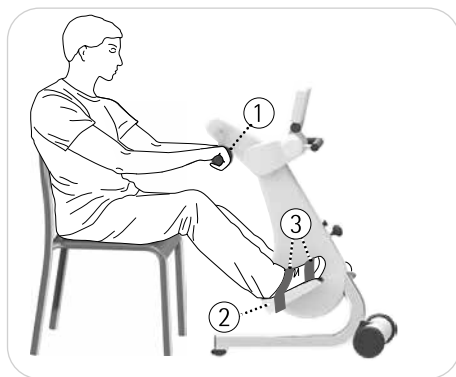


図5.21

図5.22を参照

椅子に調節可能な背もたれがある場合は、MOTOmedを快適な半リクライニング位置で使用することができます。そうするにはMOTOmed①を上方位置に移動し、椅子の背もたれを②後方に倒します。

その際には、膝関節が完全に伸びない様に気を付けます。

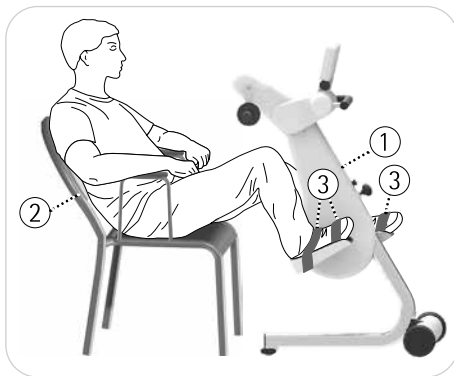


図5.22

搭乗ヘルプ

この機能を使用すると、安全フットシェルに足を下のペダル位置で順次快適に挿入することができる様に配置することができます。ホーム画面で「搭乗ヘルプ」のボタン①を選択します。



図5.23

図5.24を参照 希望の方向に適切なボタンを押します。安全フットシェルは、低速で希望の位置に移動します。目的の位置に到達したら、ボタンを放します。



図5.24

図5.21, 5.22を参照 マジックテープ③で足を固定します。

腕/上半身トレーニング

ホームスクリーンで 腕/上半身トレーニングの操作ボタンを選択します。MOTOMedが自動的に腕/上半身トレーニングに切り換えられるまで待ってください。

ページ39

別途腕/上半身トレーニングをする場合、脚を安全フットシェルから抜き出します。

グリップを反対側のポジションに持っていきます。

左側のグリップ①でペダル固定装置を開き、②グリップを180°回転し、③右側グリップとは食い違った④位置に配置します。その後、ペダル固定装置を再び②締めます。

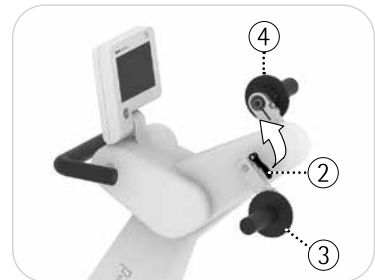
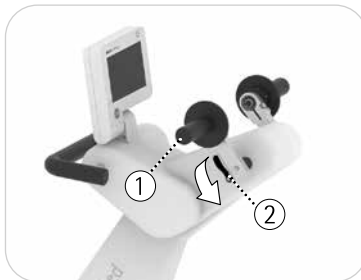


図5.25, 5.26

自動痙攣スイッチの使用説明

硬直（痙縮性）の場合、MOTOmedでゆっくりとした均一な動きを推奨します。

特に最初は低い速度でトレーニングを始めてください。この設定は特に筋肉の緊張を解くのに適しています。硬直の発生がまれになることにお気づきになると思います。

痙攣緩和プログラムのある運動保護装置は硬直(痙縮性)あるいは敏感な腱、関節そして靭帯の場合は常にスイッチが入っている様にしてください(シンボル➡①)。

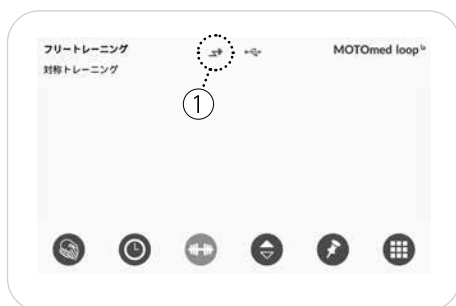


図5.27

硬直(痙縮性)あるいは他の抵抗が発生した場合、運動保護装置が設定モーターレベルにより自動的にモーターを停止します。

次に、ペダルは反対方向に回転し、痙攣緩和プログラムは、硬直（痙縮性）を解消できる運動方向である治療原理（拮抗障害）を探します。それにより、筋肉はリラックスし硬直が解消します。この手順を最大15回まで、硬直（痙縮性）が解消していくまで繰り返します。その後、次の通報が現れます「痙縮が多すぎます」。

硬直（痙縮性）の場合、脚の固定をより良くするために、必ずふくらはぎシェル付き脚ガイドが付属品として必要になります。これらは脚に安全でしっかりとしたグリップを与え、下肢の安全な位置を決め、運動中、生理的に最適な脚の位置を可能にします。

低い最大モーターパワー：たとえば骨粗鬆症

高い最大モーターパワー：たとえば高度の筋肉緊張または硬直による動きの不自由（パーキンソン病において）

これに関しては、訓練の開始前に医師とセラピストと話し合ってください。

モータートルクあるいはモーター出力の設定

受動的トレーニング

受動的トレーニングでは、「モーター出力」が駆動トルクとして機能します。これは10レベルで設定できます。

ホームスクリーンで「設定」ボタン①を押します。



図5.28

図5.29を参照 順次 ボタン「モータ制御」②そしてボタン「モータ出力」③を選択します。

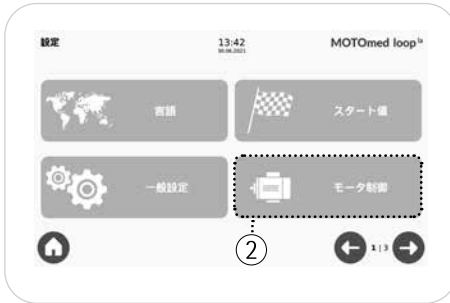


図5.29



図5.30

次に、目的のレベルを設定します。



図5.31

能動的なトレーニング

能動的トレーニングでは、運動する人の「抵抗」がブレーキトルクとしてそれに対抗します。

抵抗は0～20の範囲で変更できます。

能動的トレーニング中に「体重」ボタン①を押します。



図5.32

次に、目的の抵抗を設定します。

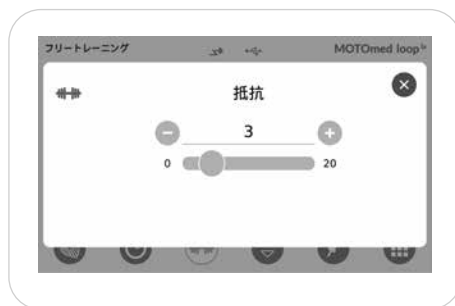


図5.33

痙縮ギアの設定

ホームスクリーンで「設定」ボタン①を押します。



図5.34

順次ボタン[センサー]②そしてボタン「痙縮識別」③を選択します。

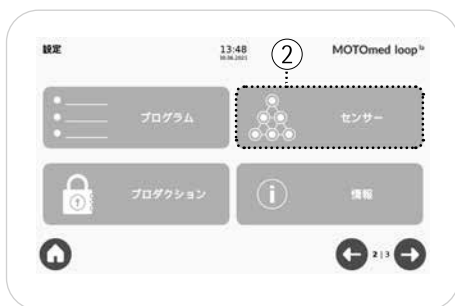


図5.35

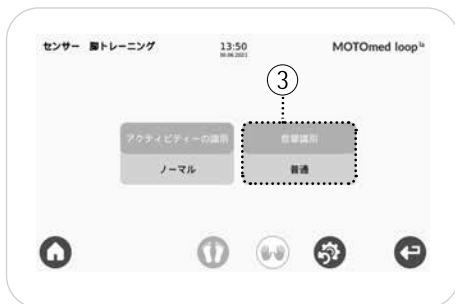


図5.36

- 55 ソフトグリップ安全フットシェル
注文番号 265.400
- 55 プラスチックコーティングされた安全フットシェル
注文番号 265.421 マジックテープ付き
注文番号 265.460 子供用安全フットシェル、マジックテープ付き
注文番号 265.441 消毒可能な留めバンド
注文番号 265.480 子供用安全フットシェル、消毒可能な留めバンド付き
- 56 ふくらはぎシェル付き脚ガイド
注文番号 302.000
- 57 プラスチックコーティングされたふくらはぎシェル付き脚ガイド
注文番号 303.000
注文番号 186.000 消毒可能な留めバンド付き
注文番号 170.100 子供用脚ガイド
- 57 脚クイック固定®QuickFix®
注文番号 265.004
- 58 ペダル半径の正確な調整(脚トレーナー)
注文番号 507.020 マジックテープ付き
注文番号 507.021 消毒可能な固定バンド付き
- 59 クイック交換技術を備えたハンドル
注文番号 265.110 ソフトグリップハンドル
注文番号 265.120 プラスティックコーティングしたハンドル
- 60 クイック交換技術を備えたテトラ・ハンドル
注文番号 555.200

- 60 **クイック交換技術を備えた垂直ハンドル**
注文番号 557.200

- 61 **クイック交換技術を備えたErgoハンドル**
注文番号 372.200

- 61 **クイック交換技術を備えた前腕シェル**
注文番号 356.200 消毒可能なプラスチックコーティング固定バンド
注文番号 556.003 サイズ XSアームカフ付き
注文番号 556.004 サイズ Sアームカフ付き
注文番号 556.005 サイズ Mアームカフ付き
注文番号 556.006 サイズ Lアームカフ付き
注文番号 556.007 サイズ XLアームカフ付き

- 62 **手の固定用手首カフ**
注文番号 562.020 サイズS
注文番号 562.030 サイズM
注文番号 562.000 サイズL

ソフトグリップ安全フットシェル

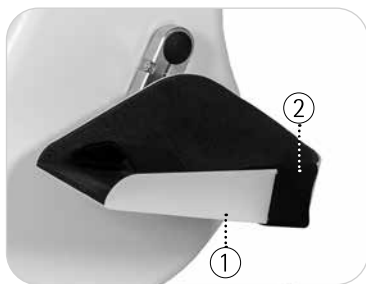


図6.1

ソフトグリップ安全フットシェル①は柔らかくパッドが入っており、周りを囲むセキュリティー外縁があり、特に足首と足を保護するために内側が高くなっています。安全で簡単な脚の固定のために、安全フットシェルには足首の周りにマジックテープ②が付いています。

プラスチックコーティングされた安全フットシェル

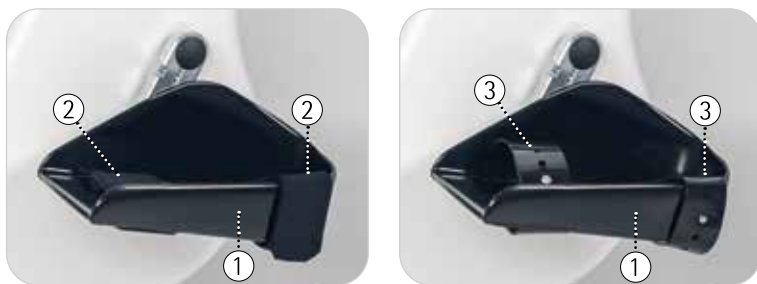


図6.2, 6.3

プラスチックコーティングされた安全フットシェル①は消毒可能なソフトPVCでカバーされています。足首や足を保護するために内側に特に高いセキュリティー外縁を持っています。足を安全かつ簡単に足を固定するために、

安全フットシェルには、①マジックテープ②が装備されています。オプションとして提供するプラスチックでコーティングした安全フットシェル①には消毒可能な、固定バンド③が付いています。

ページ57 強い固定が必要な場合、付属装置、脚のクイック固定「QuickFix」が付いた安全フットシェルを装備することができます。

ふくらはぎシェル付き脚ガイド

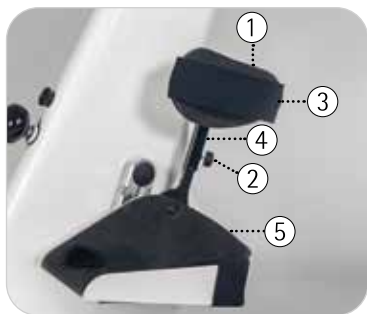


図6.4

脚ガイド④、ふくらはぎシェル①付き、は簡単に着用できるように形作られています。フレキシブルな形により、ふくらはぎシェル①は下腿に合わせることができます。

最適なガイドと脚のサポートのために、ふくらはぎシェル①は下腿にフィットしていなければなりません。

つまみネジ②を開き、脚ガイド④の高さ調整を行います。つまみネジ②を選んだポジションでまた硬く締めます。

注意



脚ガイド④の最低差し込みの深さ、3cmに注意してください。

まず、安全フットシェル⑤に脚を固定した後、下腿をふくらはぎシェル①で固定します。



時により発生するノイズはつまみネジ②で硬く締めて解決することができます。

プラスチックコーティングされたふくらはぎシェル付き脚ガイド



図6.5

オプションで、消毒可能な固定ストラップ付きのプラスチックコーティングされたふくらはぎシェル付きの脚ガイドを利用できます。

ページ56 機能についてはふくらはぎシェル付き脚ガイドを参照。

6

脚クイック固定「QuickFix」

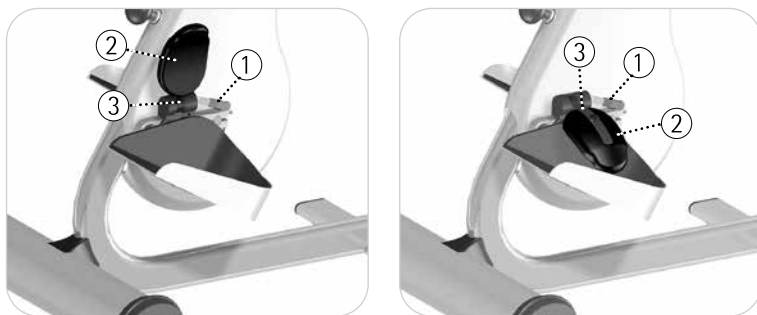


図6.6, 6.7

脚クイック固定装置「QuickFix」を使い自分の足を自分で、そして素早く、安全脚シェルの中に固定し、また再度リリースすることができます。「QuickFix」を開きながら、操作レバー①を方に押す、あるいは引き上げて足を自由にします。

手でスポンジのパッド②パッドが程よいプレッシャーを脚に与えるくらいまで下方に押し下げます。

図6.6, 6.7を参照 パッドブラケット③は短い間隔で聴覚的にラッチし、これらのラッチステップごとに確実に固定されます。
トレーニング終了後、「QuickFix」を操作レバーを①下方に押す、あるいは上方に引き揚げて開きます。

ペダル半径の正確な調整(脚トレナー)

ペダル半径の正確な設定で動きの範囲、すなわちペダル半径を正確に設定することができます。ペダル半径は両側を4段式(5.0/7.5/10.0/12.5 cm)で、あるいは継続的に段階なく設定することができます。



負傷の危険!

ペダル半径はスイッチを切ったMOTOmedで、足が入っていない時のみ調整をすることができます。

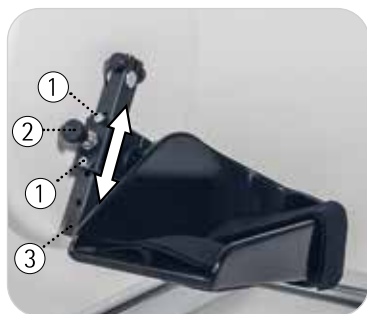


図6.8

ペダル半径を変更するには、同梱の六角スパナSW4で、両方の六角ソケットネジ①を緩めます。

ロックボタン②を引き上げて、安全フットシェルをペダル軸上③で移動させ、正確に4段階に調整することができます。

無段階調整をするには、安全フットシェルを両方の六角ソケットネジ①を使い任意の位置にペダル軸③を固定することができます。

この手順を他の安全フットシェルでも繰り返してください。

注釈：

調和のとれた動きを保証するために、両側で同じペダル半径に調整されていることを、確認してください。



場合により起こる可能性があるノイズ(ロックボタンのロックピンとペダル軸の間の遊びで起る)を両方の六角ソケットネジ①を締めることで、修正することができます。六角ソケットネジは定期的に締め直します。

クイック交換技術を備えたハンドル

図6.9

ソフトグリップハンドル①は柔らかくパッドされ滑りません。

ハンドルは消毒可能なソフトPVCでカバーされています。

クイック交換技術②により、ツールなしでハンドルの交換ができます。留め金③を開きハンドルを取り外してください。使用したいハンドルを差し込み、ブラケットを再び閉めます④。

クイック交換技術を備えたテトラ・ハンドル

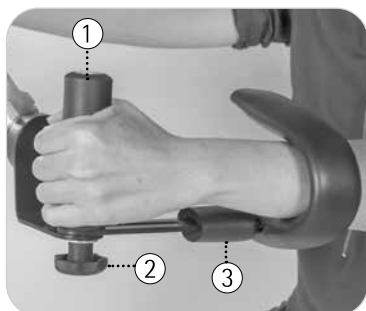


図6.10

テトラ・ハンドル①でアームを簡単に自分で挿入することができます。前腕サポート③は調整ネジ②でフレキシブルに調整することができます。

図6.9を参照 クイック交換技術の仕組みについては、ハンドルをご覧ください。

クイック交換技術を備えた垂直ハンドル

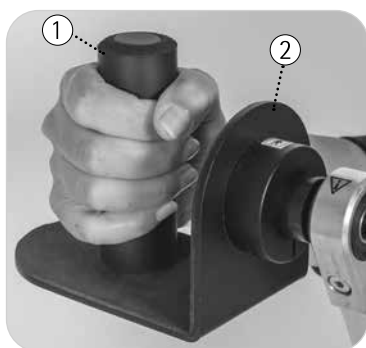


図6.11

垂直ハンドルは①多少握ることができてもハンドレストが必要なユーザーに適しています。垂直ハンドルは内側に滑り止め②を装備しています。

図6.9を参照 クイック交換技術の仕組みについては、ハンドルをご覧ください。

クイック交換技術を備えたErgoハンドル



図6.12

Ergoハンドル①は、改造せずに個々の手の位置設定を可能にします。ユーザーは、3つの取っ手の位置から選択できます。

図6.9を参照

クイック交換技術の仕組みについては、ハンドルをご覧ください。

6

クイック交換技術を備えた前腕シェル



図6.13

前腕シェル①で非常に麻痺がひどい場合、腕を取り付けて固定することができます。前腕の側方補整運動のために、前腕は前腕シェルに水平に旋回可能に取り付けられます。

前腕シェル①の下側にあるつまみネジ②を開き、クロスハンドル③を希望の方向に調整します。つまみネジ②を選択したポジションで再び硬く締めます。

注意



クロスハンドル③の差し込みの深さは最低2.5cm、に注意してください。

注意



ペダル軸に触れることがないように、手(および指)が固定されていることを確認してください。前腕シェルに載せて固定した腕と手のトレーニングは、監督下でのみ行うことができます。

図6.9を参照 クイック交換技術の仕組みについては、ハンドルをご覧ください。

手の固定用手首カフ



図6.14

手の固定用手首カフ①で、麻痺している(弱い)手を色々なハンドルに容易かつ迅速に固定することが可能です。

- 64 障害修理の安全要件
- 64 MOTomedが稼働しないあるいは
操作ユニットが反応しない
- 64 MOTomedが均一に回転しない
- 65 MOTomedへの電磁影響による障害の可能性

障害修理の安全要件



警告

MOTOmedへの介入は、認可された専門職員のみ行えます。
メンテナンス作業を行う前には、安全上の理由から、電源供給を遮断するために電源プラグをソケットから外すことが重要です。

ページ75

修理できない障害が発生し、以下に記載されていない場合、またはご不明な点がある場合は、RECK社サービスセンターまたは認定パートナーにお問い合わせください。

MOTOmedが走行しないあるいは 操作ユニットが反応しない

ページ31

電源コードが電源コンセントに正しく差し込まれ、IECコネクタがMOTOmedのホイールハブに差し込まれていることを確認してください。操作ユニットの緑色のLEDが点灯しているかどうか確認します。また、メインソケットの機能をチェックしてください（別の電気装置を差し込んで）。

MOTOmedが均一に走行しない

次の点を点検してください。

1. ペダルの半径がMOTOmedの両側で同じレベルに設定されていますか？
2. ペダルの半径がご自分の可動性と比べて設定レベルが高すぎませんか？そうすると、ユーザーに起因する不均一な回転が起こります。
3. ユーザーのポジションと姿勢
MOTOmedに対し、一直線にしっかりと座ります。膝が踏んだ時完全に伸びない状態の距離に設定します。
4. 半身が麻痺している場合、身体の状況が異なるため、不均一な円形に（特に低い制動抵抗で）走行する可能性があります。
5. 不均一な走行が脚を入れなくても起こる場合、専門家による検査を行う必要があります。

MOTOmedに対する電磁影響による障害の可能性

可能な影響	修正するための対処
トレーニングを中断する	トレーニングを再スタートする
MOTOmedが自動でオフになる	MOTOmedを再度オンにする
腕トレーナーのロックがアクティブになる	トレーニングを終了し、再びスタートする
腕トレーナーのロックが非アクティブになる	トレーニングを終了し、再びスタートする
選択したトレーニングがそれ以外のトレーニングとしてオンになる。	トレーニングを終了し、希望のトレーニングを再スタートする
トレーニング速度が変化する	対処の必要なし、障害が終わった後、自動的に回復
エラーシグナルの音が鳴る	対処の必要なし、障害が終わった後、自動的に回復する
ビジュアル・エラーシグナルが出る	対処の必要なし、障害が終わった後、自動的に回復する

洗浄、メンテナンス、再使用、リサイクル

洗浄

警告



電気圧による負傷の危険!

洗浄時と消毒時は、安全のために、MOTOmed運動セラピー装置の電源プラグを抜きます!

MOTOmedは拭き消毒方式で、特に適した拭き布を使ってのみ洗浄または消毒することができます。

注意



MOTOmedの破損の危険!

スプレー式消毒あるいは消毒シャワーを使うことは、敏感なエレクトロニック接続そしてパッキンの付いていない可動部品があるため、使うことはできません。

基本的には特別な洗浄間隔の規定はありません。

洗浄は衛生上の必要性に応じて行います。

多くのユーザーがMOTOmedを使うエリアでは、使用パーツおよびその他の、異なるユーザーの体と接触する部品（たとえば開いた傷あるいは褥瘡の危険がある場合）は使用後その度に必ず洗浄し、適切な消毒剤で消毒すること。

強力な、腐食性の溶剤あるいは活性塩素を含む洗剤は使わないこと。洗浄の際には、特にMOTOmedに取り付けられたスティッカーを破損しない様に注意してください。



推奨消毒あるいは洗浄剤の例

-メリセプトール表面消毒剤

-Sagrotan多目的クリーナー

メンテナンス

ページ17 MOTOMedは定期的なメンテナンス/カスタマーサービスをする必要はありません。トレーニングの前に第3章にあるように目視検査を行います。摩耗した摩耗部品（たとえば脚シェルのライニング、ハンドル、エキスパンダー）は交換する必要があります。この医療機器には、メンテナンスフリーのジョイントとベアリングがあり、腐食防止材のみで構成されています。

再使用

ページ17 MOTOMedは他の患者の再使用に適しています。そのためには、第3章「目視検査」およびこの章の指示を守ってください

リサイクリング

MOTOMedは、高品質の全金属構造です。
長い寿命、環境に優しくリサイクルが可能WEEEガイドライン2012/19/EU (電気・電子機器廃棄物)に従って廃棄してください。
ページ75 質問がございましたらMOTOMedのアドバイザーチームにお問い合わせください。

技術データ、サイン

寸法および重量

MOTOmedタイプ	寸法 (外寸法、cm min./max.)			重量 (kg)
	長さ	幅	高さ	
loop.l	70	60	107/122	35
loop.a	70	60	107/122	31
loop.la	70	60	107/122	36
loop.la prof	70	60	107/122	39
loop p.l	70	60	107/122	35
loop p.la	70	60	107/122	36
loop light.l	70	60	107/122	33
loop light.a	70	60	107/122	30
loop light.la	70	60	107/122	36
loop kidz.l	70	60	107/122	35
loop kidz.a	70	60	107/122	31
loop kidz.la	70	60	107/122	36

ペダル半径

MOTOmedタイプ	ボダル半径 (cm)	
	脚トレナー	腕/上半身トレーニング
全タイプ	7/12.5	10

スピード範囲

MOTOmedタイプ	スピード範囲 (回転数/分、受動的/能動的)	
	脚トレナー	腕/上半身トレーニング
全てのloopタイプ	0-60/5-120	0-60/5-120
全てのloop lightのタイプ	0-60/5-120	0-60/5-120
全てのloop kidzのタイプ	0-60/5-120	0-60/5-120
全てのloop pタイプ	0-90/5-120	0-90/5-120

調整可能なトルク

MOTOmedタイプ	最大トルク (Nm)	
	脚トレーナ	腕/上半身トレーニング
全てのloopタイプ	1-13	1-6
全てのloop lightのタイプ	1-13	1-6
全てのloop kidzのタイプ	1-13	1-6
全てのloop pタイプ	1-10	1-6

設定範囲 痙攣スイッチスイッチ

MOTOmedタイプ	設定範囲		
	敏感	普通	敏感でない
全タイプ	約0.3秒後. ブロック (脚と腕)	約0.6秒後. ブロック (脚と腕)	約1.8秒後. ブロック(脚) 約2.4秒後. ブロック(腕)

次は全ての製品バリエーションに適応します

接続値（電圧、電気周波数）

100-240V~/max. 120VA

47-63 Hz

メインプラグを引き抜くことにより、MOTOmedの全極遮断が保証されます。

消費電力

スタンバイで <1W

運転時の周囲環境条件

温度	+5°C~+40°C
空気湿度	15%~90%相対湿度、結露しないが、必要な水蒸気を含まない50hPa以上の分圧
空気圧	>783,8hPa~1060hPa
運転高度	<海面から2000m

保管および運搬時の周囲環境条件

温度	-25°C~+70°C
空気湿度	相対空気湿度90%まで、+5°C~+35°Cで結露しない 水蒸気気圧50hPaまで、>+35°C~+70°Cで
空気圧	特に情報なし

保護タイプ IP21

等級 保護クラスII, タイプBF

規制(EU) 2017/745に基づく分類MDR分類
IIa、付録VIII、規則9

指令93/42/ECによる分類
IIa、付録IX、規則9

GMDN Code 36313

NBOG Code MD 1108

FDA製品コード BXB - 動力付きエキササイザー

最大許容ユーザー体重
135 kg

推奨する身長 140-200 cm

使用材料(RoHS 対応)

スチール(塗装、亜鉛メッキ、クロムメッキ、
PVCプラスチックコーティング
アルミニウム
プラスチック：PA6.6, PC-ABS

サインの説明 - 一般事項



ペダルクランクが回転している時は、
ハウジングとペダルクランクの間に指を挟まないよ
うに注意してください。



保護クラスIIの装置



タイプBFの使用パーツ
この使用パーツは、使用目的通りに使用した時にユ
ーザーとの接触がある為、特別な安全基準に準拠し
なければならない部品です。

次のパーツ（タイプBF）はMOTOmedに取り付けるこ
とができ、定期的に検査する必要があります。

- 操作ユニット
- ハンドル
- 脚シェル
- ふくらはぎシェル付き脚ガイド

IP21

MOTOmedは保護タイプIP21:
固体異物や垂直滴下する液の侵入から保護されてい
ます。



取扱説明書に従う。



MOTOmedは医療機器ガイドライン93/42/EWGに準



MOTOmedの製造年製造年(たとえば2020)



医療機器の製造元を表示します。



安全作業負荷を含む質量 (キログラム)



正しい廃棄処理に注意する
WEEE登録番号. DE 53019630



装置のシリアル番号



MOTOmedを横から押したり、傾けたりあるいは押すことは許されません。



MOTOmedに登る、あるいは立ってトレーニングをすることはできません。

予想寿命

予想される耐用年数は、操作環境、使用頻度、および使用タイプによって決まるため、一概に言えません。

したがって、予期する耐用年数は、装置が最初の使用からスタンバイ状態を維持する期間と見なします。デバイスの種類やアクセサリの技術仕様に他の情報がない限り、このサービス寿命は10年に制限されません。

サービス

質問がありましたら、いつでもお問い合わせください。電話によるお客様の質問、アドバイスなどはいつでも歓迎です。喜んで、電話をおかけ直いたします。必ず装置番号(SN)をお伝えください。これはMOTOmedの大きな装置台にある銘板に記載されています。

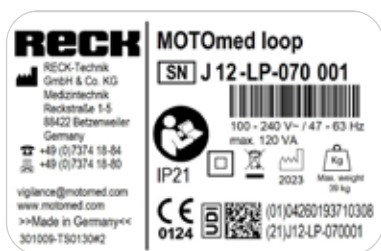


図10.1

サービス窓口、ドイツ国内

電話 07374 18-84
ファックス 07374 18-80
Eメール service@MOTOmed.com

あるいはフリーダイヤル0800 668 6633におかけください。

サービス窓口、インターナショナル

電話 +49 7374 18-85
ファックス +49 7374 18-480
Eメール service@MOTOmed.com

- 78 メーカー宣言・電磁エミッション
- 79 メーカー宣言・電磁イミュニティー
- 80 推奨する保護距離

MOTOmed電源接続ケーブルは、EN 60601-1-2:2016-05の要件に準拠していることを

本装置のメーカーが指定する、あるいは同梱の物以外の付属部品およびケーブルの使用は、本製品の電磁エミッションが高くなる、あるいは電磁イミュニティーが低下し、機能性を低下させる可能性があります。

メーカー宣言・電磁エミッション


MOTOmedは下記の電磁環境において使用する様に作られています。MOTOmedのお客様、あるいはユーザーはこの様な環境にて使用することを確認してください。

妨害エミッションの測定	適合	電磁環境ガイドライン
CISPR 11に準拠するRFエミッション	グループ1	MOTOmedはRF（高周波）エネルギーを内部機能のためにのみ使用しています。したがって、RFエミッションは非常に低く、近くにあるエレクトロニクス装置に支障を与える可能性はまずありません。
CISPR 11に準拠するRFエミッション	クラスB	MOTOmedは、居住地域を含むすべての施設で使用することを目的としており、公的供給ネットワークに直接接続され、居住目的で使用される建物にも供給されます。
IEC 61000-3-2に準拠する高調波エミッション	クラスA	
電圧変動エミッション/ IEC 61000-3-3規定に対応するちらつき	準拠。	

メーカー宣言・電磁イミュニティー

MOTOmedは下記の電磁環境において使用する様に作られています。MOTOmedのお客様、あるいはユーザーはこの様な環境にて使用することを確認してください。

イミュニティーテスト	IEC 60601の検査レベル	電磁環境ガイドライン
IEC 61000-4-2による静電気放電 (ESD)	±8 kV接触放電 ±15 kV気中放電	床は木材あるいはコンクリートで建設されている、あるいはセラミックタイルで覆っていること。床が合成材料で覆われている場合、相対湿度は少なくとも30%でなければなりません。
高速過渡電気障害/ IEC 61000-4-4のバースト	±2 kV 100 kHz繰り返し周波数	電源電圧の質は一般的なビジネス環境または病院環境対応のものでなければなりません。
インパルス電圧 IEC 61000-4-5 の (サージ)	±0.5 kV, ±1 kV 電線対電線	電源電圧の質は一般的なビジネス環境または病院環境対応のものでなければなりません。
電圧低下、短時間の中 断、および電源電圧変 動、IEC 61000-4-11	0% UT; ½期間 0, 45, 90, 135, 180, 225, 270 および315度において 0% UT; 1期間 単層: 0度において 70% UT; 25/30期間 単相: 0度において 0% UT; 250/300期間	電源電圧の質は一般的なビジネス環境または病院環境対応のものでなければなりません。MOTOmedのユーザーから停電した場合でも継続して動作する要求がある場合は、MOTOmedに中断のない電気供給あるいはバッテリーから電気を供給することをお勧めします。
供給周波数 (50/60Hz) における磁場 IEC 61000-4-8による	30 A/m	グリッド周波数の磁場は、企業や病院の環境であるような典型的な値でなければなりません。
注記: UTは試験レベルを適用する前の主電源電圧です。		

イミュニティーテスト	IEC 60601の検査レベル	電磁環境ガイドライン
IEC 61000-4-6、 転送RF障害 IEC 61000-4-3、 プラスとRF障害	3V _{eff} 0,15MHz～80MHz 6V _{eff} 0,15MHz～80MHzのISMおよびアマチュア無線周波数帯 1kHzにおいて80% AM 10V/m 80MHz～2,7GHz 1kHzにおいて80% AM	他の装置のすぐ近くでの使用は避けてください。誤動作の原因となる可能性があります。しかしながら、上記の方法で使用することが不可欠である場合は、本機と他の装置が正しく動作することを確認する必要があります。 オンサイトの調査によれば、固定無線送信機の電界強度は、すべての周波数において試験レベルよりも低くなければなりません。 次のシンボルが付いた装置の近くでは、障害が発生する可能性があります。 
注記: このガイドラインは必ずしも全てのケースに適用しないかもしれません。電磁気量の広がり、建物、物体および人間による吸収および反射によって影響されます。		
a) 固定送信機の電界強度、例えば、無線電話および陸上移動無線の基地局、アマチュア無線局、AMおよびFMラジオおよびテレビ局は、理論的に正確に予測することはできません。静止式送信機の電磁環境を調べるには、そのサイトの調査が検討されるべきです。MOTOmedが使用されている場所で測定した電界強度が上記の準拠レベルを超える場合は、MOTOmedの指定の機能が可能か観察、確認する必要があります。異常な性能特性が出現する場合、たとえば方向を変更するあるいは他の場所にMOTOmedを移動するなどの追加の措置が必要となる場合があります。		

可動式あるいは携帯のRFテレコミュニケーション装置およびMOTOmedとの推奨保護距離

MOTOmedは、RF妨害が制御されている電磁環境でのみ使用が可能です。

携帯用RF通信機器（ラジオを含む）（アンテナケーブルや外部アンテナなどのアクセサリを含む）は、メーカーが指定したMOTOmedの部品や配線から30cm（12インチ）以上離して使用してください。そうしないと、装置のパフォーマンスが低下する可能性があります。

索引

- クイック交換技術 59
- くらはぎシエル付き脚ガイド 57
- クリーニング 67
- サービス 75
- サインの説明 72
- スタンバイ 31
- スタンバイモード/運転 31
- スピード範囲 69
- テトラハンドル 60
- トレーニングの準備 34
- ふくらはぎシエル付き脚ガイド 56
- フリートレーニング 36
- ペダル半径の正確な調整(脚トレーナー) 58
- ペダル半径 43, 69
- まえがき 1
- メンテナンス 68
- モータートルクあるいはモーター出力の設定 49
- モータースピード 42
- ユーザー体重 71
- 付属部品 53
- 使用目的 7
- 使用開始 30
- 保護タイプ 71
- 保護距離 80
- 免責事項 8
- 再使用 68
- 初回運転 11
- 前腕シエル 60, 61, 62
- 区分 71
- 医療機器クラス 71
- 周囲条件 71
- 垂直ハンドル 60
- 垂直調整 35
- 安全対策 11
- 寸法 69
- 技術データ 69
- 抵抗 43
- 接続値 70
- 操作ユニット 34
- 攣縮の緩和 48
- 殺菌 67
- 治療目標 8
- 消費電力 70
- 準備 34
- 症状 9
- 目視検査 17
- 禁忌 9
- 能動的/受動的トレーニング 42
- 脚トレーニング 44
- 腕/上半身トレーニング 12
- 製造年 73
- 負の副作用 5
- 足ガイド「TrainCare」 30
- 運動保護 48
- 運搬 24
- 運搬用ローラー 24
- 重量 69
- 重量制限 71
- 障害の修理 64
- 電源ケーブル 31
- 電磁イミュニティー 77, 79
- 電磁エミッション 77, 78
- 安全フットシエル 55

CEマーク 73
垂直ハンドル 60
搭乗ヘルプ 46
Ergoハンドル 61
患者ターゲットグループ 7
脚クイック固定「QuickFix」 57
痙縮ギアの設定 52
臨床的効用 9
納入品目 25
「QuickFix」 57, 58
望ましくない副作用 10
運搬 24
障害の修理 63
重大な事柄 10
自動痙攣スイッチの使用説明
48

製造年2020年から有効

100.019.439 ja 20231207

技術革新による技術的変更がある可能性があります。

RECK社の書面による許可なく、全体または一部の複製は許されません。

RECK

RECK-Technik GmbH & Co. KG

Reckstraße 1-5, 88422 Betzenweiler, GERMANY

電話 +49 7374 18-85, ファックス +49 7374 18-480

info@MOTOmed.com, www.MOTOmed.com

